別海町議会会議録

第4号(令和2年3月10日)

○議事日程

日程第 1

会議録署名議員の指名

日程第 2

一般質問

① 1番 宮越正人議員

② 11番 瀧川榮子議員

③ 8番 松壽孝雄議員

○会議に付した事件

日程第 1

会議録署名議員の指名

日程第 2

一般質問

① 1番 宮越正人議員

② 11番 瀧川榮子議員

③ 8番 松壽孝雄議員

○出席議員(16名)

1番 宮越正人	2番 横田保江
3番 田村秀男	4番 小椋哲也
5番 外山浩司	6番 大内省吾
7番 木嶋悦寛	8番 松壽孝雄
9番 今西和雄	10番 小林敏之
11番 瀧川榮子	12番 松原政勝
13番 中村忠士	14番 佐藤初雄
副議長 15番 戸田憲悦	議長 16番 西原浩

○欠席議員(0名)

○出席説明員

町長 曾根興三	副町長 佐藤次春
教育長 登藤和哉	総務部長 浦山吉人
福祉部長 今野健一	産業振興部長 門脇芳則
建設水道部長 山岸英一	教育部長 山田一志
病院事務長 大槻祐二	監査委員事務局長 小林由治
福祉部次長 青柳茂	産業振興部次長 小湊昌博
建設水道部次長 伊藤一成	教育部次長 石川誠

財 政 課 長 寺 尾 真 太 郎
防 災 交 通 課 長 麻 郷 地 聡
尾 岱 沼 支 所 長 他 福 原 義 人
介 護 支 援 課 長 千 葉 宏
老 人 保 健 施 設 事 務 長 竹 中 利 哉
管 理 課 長 伊 藤 一 成
病 院 事 務 課 長 小 川 信 明
学 務 課 長 他 入 倉 伸 顕
中 央 公 民 館 長 内 山 宏

税 務 課 長 宮 本 栄 一
西 春 別 支 所 長 他 田 村 康 行
福 祉 課 長 干 場 み ゆ き
町 民 課 長 青 柳 茂
水 産 み ど り 課 長 小 湊 昌 博
上 下 水 道 課 長 外 石 昭 博
指 導 参 事 根 本 涉
生 涯 学 習 課 長 他 石 川 誠
図 書 館 長 他 新 堀 光 行

○ 議 会 事 務 局 出 席 職 員

事 務 局 長 小 島 実 主 幹 松 本 博 史

○ 会 議 録 署 名 議 員

7 番 木 嶋 悦 寛
9 番 今 西 和 雄

8 番 松 壽 孝 雄

◎開議宣告

- 議長（西原 浩君） おはようございます。
ただいまから第6日目の会議を開きます。
ただいま出席している議員は16名であります。
定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

◎日程第1 会議録署名議員の指名

- 議長（西原 浩君） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則第126条の規定により議長において指名いたします。
7番木嶋議員。
○7番（木嶋悦寛君） はい。
○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。
○8番（松壽孝雄君） はい。
○議長（西原 浩君） 9番今西議員。
○9番（今西和雄君） はい。
○議長（西原 浩君） 以上3名を指名いたします。

◎日程第2 一般質問

- 議長（西原 浩君） 日程第2 一般質問を行います。
発言に入る前に申し上げます。
質問者は、質問内容を簡明に述べて、その範囲を超えないよう注意し、答弁者は、その内容を的確に把握し、明快な答弁をされますようお願いいたします。
質問の通告がありますので、順次発言を許します。
初めに、1番宮越正人議員、質問者席にお着き願います。
○1番（宮越正人君） はい。
○議長（西原 浩君） なお、質問は一問一答方式であります。
○1番（宮越正人君） 議長。
○議長（西原 浩君） 1番宮越議員。
○1番（宮越正人君） それでは通告に従いまして、2点にわたり質問をいたします。
まず、海岸の侵食対策についてでございますが、近年の頻発する低気圧の発生によりまして、本町の海岸線は浸食によりその多くが失われています。
町長も就任以来、野付半島はじめ被害のあった現場に駆けつけ町民の皆様の声に耳を傾けていただいておりますけれども、建設水道部にあつては連絡があつた際にはですね、事業課、管理課こぞって緊急に駆けつけまして、所管の北海道に窮状を伝えながら、町ができることは迅速にですね、対応していただいているものと承知をしております。
地域の皆さんからは、町長や職員の対応にですね、感謝の声が多くあります。
ただ、危惧しておりますのは、漁港や国道など越波する高潮被害が毎年増え続けておりまして、前浜の浸食が続くなど生活やその産業活動がですね、危機的状況となつてきておりまして、実際に所管の道がどのような対策をとってくれるのか。

そして3年前、5年前、10年前とですね、現場確認はしていただいておりますけれども、その後は何の音沙汰もないといった不安に対するものが多く、町に救いの手を求める声が寄せられております。

これは所管が道であってもですね、まずは役場だという信頼関係によるものだというふうに思っておりますけれども、担当しておりました自らの反省を踏まえてですね、町民の皆さんの不安を少しでも和らげたく、次の2点について質問します。

幹部職員の皆さんも厳しい顔をしていますけれども、自らの反省を踏まえてということで、御理解をいただきたいというふうに思います。

まず1点目でございますけれども、本町の前浜、これは野付半島から走古丹にかけてでございますけれども、所管するの浸食対策はどのような計画になっているのか。計画の進捗状況はどうなっているのか。その情報を広く地域に周知できないかとそういう1点でございます。

また、状況確認のため、町単独でもですね、町民の声を聞く機会を設けられないかと、そういう点で町長の所見を伺いたいと思います。

○町長（曾根興三君） はい。

○議長（西原 浩君） 町長。

○町長（曾根興三君） 宮越議員の御質問ですけれども、あえて自分の現職時代のことを触れて御質問をされましたので、多分御意向としては、どういう状況になっているのかということを広く町民に知らせてほしいという思いでの質問だというふうに受けとめております。

まず、海岸保全事業ですけれども、別海町は議員がおっしゃられたように大変長大な延長にわたり海岸線がございます。

道の計画といたしましては、野付半島地区、そして春別地区、床丹地区、そして走古丹地区というような形で、それぞれ整備計画を立てておりますけれども、漁港前は漁港内として、これはまた所管が別なものですから、そちらのほうで計画を立てております。

ただ、昔から比べますと、非常に国全体での海岸保全に対する予算が伸び悩んでいるという中で、当町においても、昔よりも予算が少なくなっているという中で、非常に整備の進捗は遅れているというのも事実でございます。

私も、全道の首長会の中で、海岸保全事業の推進協議会、または治水砂防事業の推進協議会等の理事、委員としていろいろな場面で出席し発言をしております。

まず、海岸保全にとって一番大事なことは、予算を確保することだというふうに思っております。

ただ、国全体での予算も先ほど申し上げましたように、いろいろな地区で大きな災害が起きている昨今において、なかなかその海岸保全だけについての予算は、増額が難しい状況にあるというような回答をいつも要請に行ったときに受けているところで、それも一つ仕方がないのかなという部分がありますけれども、国を守るという本来の目的の事業というのは、必要な地区が大変多いということも常に訴えているところでございます。

特に、野付半島は砂嘴ということで、流砂が少なくなってくると、やはり付け根が細くなって最終的には途切れてしまって、離れ小島になってしまうという状況が懸念されることは、これは地政学的にも十分証明されることであり、そのことを防いでいくということは、これからも大事な対策だというふうに思っております。

走古丹も同じように、流れてくる砂が少なくなってくると、どんどん削られて細くなっ

ているという事実がございまして、どう対応して行くかということも大事なことだと思っております。

住民の声を聞くことが必要だということでございますけれども、私も就任前から海岸保全に対しては宮越議員の大分前に担当していた責任者としても、常に一番気にかかっているところでして、現場に出向いては、地元の人たちの声を聞いていたところでございます、どんな気持ちを持っているかということも、把握しているつもりでございます。

ただ、今、町はどういう対応しているかということが住民のほうに見えてこないというのも、宮越議員が懸念していることだと思いますし、そのことも大事なことだと思いますけれども、今申し上げましたように、なかなかその計画が進捗していかない中で、進むのも難しいということと言えるのかなということも、非常に説明のしづらいところでございますけれども、今後とも、道、国に対して積極的に別海町における海岸保全事業の事業費拡大、増大について、声を大にして要請をしていくということは大事なことだというふうに思っておりますので、ぜひ住民の皆様方にも、議員の皆様方にそういう疑問が投げかけられた場合には、町長はそういうふうに言っているというような回答をしていただければというふうに願っております。今後とも御理解よろしくお願い申し上げます。以上です。

○1番（宮越正人君） 議長。

○議長（西原 浩君） 1番宮越議員。

○1番（宮越正人君） 町長からいろいろ御説明をいただきました。

町長が建設水道部長や産業振興部長ということで歴任をされておりましたので、その長い間この問題にはですね、関わっていただきまして、長くその要請活動を続けていただいていると承知をしております。

ただ答弁にありましたとおりですね、国あるいはその道の予算状況が厳しいというのは実はその地域の皆さんも知っております。

問題はですね、これもその答弁の中にございましたけれども、浸食対策の計画があるのかないのかという、そういう理由、またあるとすれば、いつどのように実施をされるのかというその情報が全くない状況の中ですね、不安が増幅されるという点が非常に住民の皆さんの気持ちとしては大きいのかなというふうに思っております。

正しい情報ではないかもしれませんが、尾岱沼から順にですが防潮堤が建設されるとの声も聞いておりますけれども、これらの点について、現在伝えられる情報等がございましたら教えていただきたいというふうに思います。

○建設水道部長（山岸英一君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 建設水道部長。

○建設水道部長（山岸英一君） それでは、私のほうから、道のほうで、今町のほうで把握できている全体計画についてちょっと説明させていただきます。

まず、野付崎海岸全体の海岸浸食の防止につきましては、全体計画では突堤が全体で51基計画されております。それから消波堤につきましては、全体で4,010メートル、4キロと10メートルの計画があります。

そのうち、平成元年で完成しているのが突堤につきましては、39基76.5%が完成しております。それから、消波堤につきましては、1,745メートル、43.5%を割っている状況です。

現在のところ、町で把握できている皆さんに公表できる数字は以上となります。

○1番（宮越正人君） 議長。

○議長（西原 浩君） 1 番宮越議員。

○1 番（宮越正人君） 今の情報を伝えていただきましたけれども、本来であればですね、これらの情報も管理者である道がですか、広く周知すべきものだと思いますけれども、我が町のことでございますのでね、情報がわかり次第、道の許可を得ていただきましてですね、町も積極的にお知らせをいただきたいというふうに思います。

先ほど、町長からその情報共有をしたいとお聞きをしていましたので、答弁は要りません。

2 つ目の質問に移ります。

政府の地震調査委員会は、千島海溝巨大地震が今後 30 年以内に高い確率で発生すると公表しておりますけれども、町は高潮、津波被害等に対してですね、どのような減災対策をお考えかお伺いしたいと思います。

○総務部長（浦山吉人君） はい。

○議長（西原 浩君） 総務部長。

○総務部長（浦山吉人君） 私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

高潮や津波による人的被害を軽減するためには、住民一人一人の主体的な避難行動や避難行動を促す情報の確実な伝達が最も基本となると言われております。

これらの行動が迅速に行われるよう、地域の自主防災組織などと連携をし避難訓練や講習会等の内容にさらに検討を加えながら、今後も継続して実施をしていきたいというふうに考えております。

なお、今後、国から日本海溝千島海溝周辺海溝型地震における新たな津波浸水予測等が示される予定となっておりますけれども、それらが公表され次第、本町の津波ハザードマップを更新し、減災意識のさらなる高揚を図ってまいりたいと考えております。

また、ハード部分では、低気圧等の高潮による漁港岸壁等からの越流により浸水被害が発生をしている尾岱沼漁港海岸において、漁港施設背後の約 1.3 キロメートルの区間を現在、北海道が高潮被害を防止するため、海岸保全施設整備を進めているところでございます。以上です。

○1 番（宮越正人君） 議長。

○議長（西原 浩君） 1 番宮越議員。

○1 番（宮越正人君） わかりました。

30 年以内とのことでございますので、明日起こってもっていう状況だと思います。なるべく早くですね、対策の全容をお知らせをいただきたいというふうに思います。

実はですね、海岸地域では、これまでの津波の経験から、避難指示等の状況になっても、まずは船を沖に出すとか、海岸にある倉庫を守る、そして住宅を守るといった考えもですね、実は少なくはありません。東日本大震災の経験からその考えもですね、まずは命を守るというふうに変化をしてきているところもございますけれども、地域を挙げての防災減災の意識高揚は、まだまだ足りないというふうに感じております。

実は幸いにして、海岸地区の全戸には行政防災無線が設置されておりますので、平時からですね、その地震による津波警報発令された場合の避難行動の確認やら、地区別の避難場等の指示などのですね、耳からの繰り返しの情報により、発生時には即座に反応できるよう定期的な注意喚起の放送内容を検討できないか、お聞きをしたいと思います。

なお、この件に関しましては質問通告しておりませんので、この場でお答えできなければ、その旨おっしゃっていただきたいと思います。次の機会に御質問したいと思います。

○総務部長（浦山吉人君） はい。

○議長（西原 浩君） 総務部長。

○総務部長（浦山吉人君） 宮越議員から防災行政無線を活用した避難行動を促すような活用の仕方ということで、御提案を受けたところでございます。

いろいろ設定等の問題もございまして、非常にすばらしい提案だと思うんですけども、容易にできるというように、ちょっと即答はできない状況でございますので、その辺十分御提案を尊重させていただきながら、内容について御検討させていただき、また次の機会にお答えさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○1番（宮越正人君） 議長。

○議長（西原 浩君） 1番宮越議員。

○1番（宮越正人君） 前向きな答弁をいただきましたけれども、東日本大震災のような驚天動地の災害にはですね、日ごろから繰り返される耳からの情報が住民の避難に大きな効力を発揮するという、その専門家の御意見もございまして、ぜひ対応方願いたいと思っております。

次の質問に移ります。

それでは、別海高校の志願状況と生徒の確保対策についてお伺いします。

別海高校への各支援策は短期的なものではなく、中長期的な視野に立ったものが必要不可欠であり、高校生の学力の向上や部活動による活躍は、本町のまちづくりにも多岐にわたる効果をもたらすものと確信しておりますが、これまでの取り組みの成果、そして結果をですね、どのように分析をされているか、次の3点について質問します。

まず1点目は、令和元年度における町内からの志願者数と町外からの志願者数をお伺いいたします。

○学務課長（入倉伸顕君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 学務課長。

○学務課長（入倉伸顕君） はい。

この御質問については、私のほうからお答えさせていただきます。

令和元年度における町内からの出願者数については、北海道教育委員会が公表している出願状況において、普通科定員120名に対し106名、酪農経営科定員40名に対し14名の出願者数です。

町内の出願者数については、町内各中学校からの聞き取りでは、普通科93名、酪農経営科11名です。よって、町外は普通科13名、酪農経営科3名となります。

○1番（宮越正人君） 議長。

○議長（西原 浩君） 1番宮越議員。

○1番（宮越正人君） わかりました。

町内、町外からの志願者数でございますけれども、昨年と比べて多かったか少なかったかということでございますけれども、データがあればお知らせいただきたいと思います。

○議長（西原 浩君） 答弁調整のため暫時休憩します。

午前10時20分 休憩

午前10時21分 再開

○議長（西原 浩君） 休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

○学務課長（入倉伸顕君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 学務課長。

○学務課長（入倉伸顕君） はい。

町内卒業生増えたかどうか、志願者数ですね、増えたかどうかの部分ですけども、町内の部分のみでちょっとお知らせさせていただきます。

普通科ですけども、去年は84名の志願者がありまして、今年度については93名の志願者となっておりますので、9名増えております。

酪農科につきましても、去年は7名の志願者数でしたが、今年度は11名となっております、4名増加しております。

町外については、ちょっと押さえておりませんので御了承ください。

○1番（宮越正人君） 議長。

○議長（西原 浩君） 1番宮越議員。

○1番（宮越正人君） 普通科、酪農科ともにですね、人数も増えているということで、人数が増えた、少なくなったと一喜一憂するものではございませんけれども、効果がだんだん出てきたのかなというそんな気がしております。

次の質問に移りたいと思います。

令和元年度高校入試において、町内の中学生が町外高校へ志願した数、各中学校別にお知らせいただきたいと思います。

町外を志願した中学校の選択理由の状況調査等があれば、その結果を報告していただきたいと思います。

○教育部長（山田一志君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 教育部長。

○教育部長（山田一志君） この御質問は、私のほうからお答えをさせていただきます。

町内中学生の町外高校への中学別志願率は、野付中で55%、上風連中で50%、中西別中で、これはありませんのでゼロ、別海中央中で37%、西春別中で43%、中春別中で32%、上西春別中で42%、上春別中で57%です。

町外に高校を志望する理由につきまして、各学校を通じて聞き取りを行ったところ、主な理由としましては、学習面、進路希望または部活動でより高いレベルの高校で頑張りたい。また、校風が合っているから、また、将来の職業を考えて高等専門学校等を選択する、得意な英語を生かして国際教育など将来的な職業に結びつけたいなどの意見がございました。

また、町外からの志願者に対して、志願理由調査を入学後に行うということにつきましては、これまでは実施をしておりますが、その理由を知るということは、別海高校を選択しやすい環境を整えるためにも重要なことだというふうに考えますので、今後、別海高校と調整を図りながら、実施に向けての取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○1番（宮越正人君） 議長。

○議長（西原 浩君） 1番宮越議員。

○1番（宮越正人君） ただいま報告をいただきましたけれども、もう約その半数の子供たちが町外へというところでございますけれども、それぞれその向学心に燃えてですね、本町以外の高校へ行くというのは当然、その応援をしなければならないというところでございますけれども、もう将来ですね、また町に戻っていただくような方策をこれからその考えなければならない、町として考えなければならないのかなというところでございま

す。まず、中央中学校が37%というふうにお聞きしましたがけれども、中央中学校の状況ですね、聞いてみましたところ、うちにはもう寄宿舎やら通学費のメリットがないということで、なかなかその父兄にもですね、支援策が浸透してないという話もございました。

例えば、部長の答弁にもございましたけれども、その学力の向上が図れるもの、あるいはそのレベルの高い部活動に加入できるというそれらの魅力をですね、さらに別海高校でそれらを可能なものにできるというような状況、そして、これから支援策としては、それらの今の生徒のですか、気持ちも考えてあげられるような、その方策をですね、考えていただきたいなというふうに思います。

3つ目の質問に移ります。

別海高校へのこれまでの各支援策で効果の現れているもの、さらなる支援が必要と考えるものなど、現時点での評価を踏まえた対策をお聞かせください。

○教育部長（山田一志君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 教育部長。

○教育部長（山田一志君） はい。

本町では御承知のとおりですね、地域人材を担う別海高校の魅力ある学校づくりに向けて、普通科3学級の確保、酪農経営科の増員のため、様々な支援事業を行っております。平成26年度に普通科が2学級での募集となった以降、平成27年度からバス通学費の全額助成、進学対策支援のeラーニング受講補助等の支援策を追加してまいりました。

これらの取り組みが実を結びまして、平成29年度の普通科入学者が86名となり、4年ぶりに普通科3学級が確保されております。

平成29年度からは部活動遠征費補助の拡充、部活動等外部指導者派遣事業、これを実施しており、平成30年度からは寄宿施設等の利用費助成を追加して実施をしております。それぞれの事業で効果があらわれているというふうに考えており、1例を挙げますと、寄宿施設助成事業では、今年4月からの入居者が全体で19名中、町外から9名の入居が見込まれておりまして、志願者数の増加につながっているというふうに考えております。

また、部活動外部指導、指導者の派遣事業では、野球部が19年ぶりに全道大会に進出したこと、また、高校生ミニ人間ドックの実施により、自分の体の状態を把握することや栄養について学ぶことで、今後の健康維持につながっていること、また、進学対策支援eラーニング受講補助の実施により、パソコンやスマートフォンでeラーニングを利用することができ、日頃の勉強したい教科のほか、英語検定や簿記検定、さらには公務員試験対策も選択が可能となっていること、また、大学視察研修事業では、道内の大学を見学することで、進路選択に有効であることなどの効果が現れているというふうに考えているところです。

これらの支援事業を総合的に進めることで、平成29年度以降3年連続、来年度を含めますと4年連続で普通科3学級を確保できていること、また、来年度に酪農経営科の増員が見込まれていることも効果の現れというふうに考えております。

今後も地域活性化や本町の経済振興支える人材の育成を進めるため、地元別海高校への支援として、寄宿施設の助成をはじめ、各種支援事業を推進し、魅力ある高校として選択できる環境を整え、普通科3学級の確保、そして、酪農経営科の増員に向けて取り組みを進めてまいりたいというふうに考えているところです。以上です。

○1番（宮越正人君） 議長。

○議長（西原 浩君） 1 番宮越議員。

○1 番（宮越正人君） 支援内容をですね、多岐に渡って広く網羅されているなど、そして、それらが少しずつですけれども浸透してきたなという気がしております。

部長のお話にもありましたけれども、普通科の学級数維持、そして歴史のある酪農科の存続も含めて、冒頭に申し上げたとおり、中長期的な支援に立ってですね、今後とも支援をしていただきたいと。そして、その中では町民の皆様からもですね、アイデアを募るなど、二の矢三の矢と続くですね、町のさらなるその支援を期待して質問を終わらせていただきます。

○議長（西原 浩君） 以上で、1 番宮越正人議員の一般質問を終わります。

次に、1 1 番瀧川榮子議員、質問者席にお着き願います。

○1 1 番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） なお、質問は一問一答方式であります。

○1 1 番（瀧川榮子君） 議長。

○議長（西原 浩君） 1 1 番瀧川議員。

○1 1 番（瀧川榮子君） はい。

通告に従いまして質問させていただきます。

病児・病後児保育実施への方向性は、平成27年度から子ども・子育て支援新制度が施行されることになり、第1期別海町子ども・子育て支援事業計画が、期間を平成27年度から令和元年度として策定されました。計画の中に病児保育事業も挙げられましたが、計画策定段階では、別海町に病児保育の事業実績はありませんでした。

計画の最終年度となった令和元年9月段階でも対応できる場がない状況であり、病児・病後児保育の計画実施に向けた今後の考え方について、さきに一般質問を行いました。

答弁では、子育てをしながら働き続けるための環境づくりを支援する一つとして重要だと認識していると子育てを応援する意欲のある言葉が聞かれました。

今年は、第2期別海町子ども・子育て支援事業計画が始まることから、改めてその必要性を認識し、病児・病後児保育実施に向けて計画策定及び計画の準備に取り組まれたことと考えます。

このことから、子ども・子育て支援事業計画について、次の3点にわたって質問します。

1点目として、第1期計画と同様、第2期計画の策定に当たっても子供を持つ保護者へのニーズ調査が実施されました。

保護者の病児・病後児保育のニーズについてお聞きします。

○福祉部長（今野健一君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 福祉部長。

○福祉部長（今野健一君） 私のほうからお答えいたします。

今年度実施しましたニーズ調査では、今後、病児・病後児のための保育を利用したいかの問いについては、できれば利用したいと答えた方が、就学前保護者で回答者191人中、46人の24.1%、小学生保護者で回答者257人中、42人の16.3%となりました。一方で、利用したいとは思わないとの回答が、就学前保護者191人中、142人で74.3%、小学生保護者で257人中、209人の81.3%の結果となったところです。

就学前保護者及び小学生保護者のどちらも利用したいと思わないと答えた方が利用したいを大きく上回る結果となりましたが、利用したいと思われる方が一定数あること、小学生保護者よりも就学前保護者のニーズが高いことを確認しております。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

子供が病気やけがのときに幼稚園等の利用できなかったという問いに対して、アンケートの問いに対しては、平成25年度と全く変化のない数字でした。

病児・病後児保育の利用のニーズが今回アンケートの結果では半分以下になったということは、アンケートのとり方に変化があったのかどうかについてお聞きします。

○福祉部長（今野健一君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 福祉部長。

○福祉部長（今野健一君） お答えいたします。

今回のニーズ調査の際には、病児保育に一般的に料金がかかること、それから事前に医師の診断が必要なことを付記して調査をしております。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

この金額を提示しても、なお利用者がいるということですのでけれども、その提示された金額というのは幾らの金額を提示されたのかお聞きします。

○福祉部長（今野健一君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 福祉部長。

○福祉部長（今野健一君） 今回の調査では一般的な数字、金額ということで3,000円程度というふうに明記しております。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

次の質問にも関連がありますので、2番目の質問に移ります。

第2期計画の策定に向けては、ニーズ調査の結果を踏まえ、どのような協議が行われ、計画にどのように反映されることになったのかお聞きします。

○福祉部長（今野健一君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 福祉部長。

○福祉部長（今野健一君） 先ほどの質問でも申し上げましたけれども、ニーズ調査の際、病児保育には一般的に料金がかかること、事前に医師の診断が必要なことを付記して、今回調査を行っております。

利用したいとの声は、病児保育を必要とする保護者の真の意向と受け止め、計画を策定する子ども・子育て会議において、重点的に審議を進めた項目であります。

病児保育を実施するに当たって、医療機関等との連携体制が不可欠なことから、今後の実施に向けた体制整備に伴う課題等について、別海病院の小児科医師を交え協議を行っているところです。

第2期の計画では、感染に配慮した病児の受入れ施設や看護師・保育士などの支援に必要な人員の確保等について、今後も医療機関等との連携により、令和4年度の事業開始を目指すとしているところです。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

令和4年度から実施ということでは期間がまだ2年ありますけれども、大変な様々な検討事項があるので、それぐらい時間はかかるのかなと思っています。

質問ですけれども、子供が病気やけがのときの対応、保護者は割合が全く変化なしで病児・病後児保育を利用したいと思わないという保護者の数が30%近く増加しています。これは利用料が生活を圧迫するというこの躊躇の表れではないかと思います。

安心して働き続けられるということが安全に子供を育てるということにもつながると思うんですけれども、実施に向け、これから協議する検討の中に内容が多々あると思うんですけれども、提示する金額、一律の金額ではなく所得に応じた利用料にするということ、協議の検討事項の中に入れていくという考えはあるのでしょうか。

○福祉部長（今野健一君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 福祉部長。

○福祉部長（今野健一君） 具体的な内容につきましては、これから協議をしていかなきゃならないと思いますけれども、実際に現在、公立の施設で病児・病後児保育を行っているところの状況等も確認しながらですね、進めていきたいというふうには考えております。ほかの施設につきましても、課税・非課税ということで所得に応じた取り扱いとしておりますので、その辺も参考にしながらですね、今後進めていきたいというふうに思います。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

3点目に入ります。

第1期計画では、利用者の対象年齢がゼロ歳から5歳となっていました。安心して働き続けるためには、対象年齢を引き上げる必要があると考えますが、いかがですか。

○福祉部長（今野健一君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 福祉部長。

○福祉部長（今野健一君） 前期の計画におきましては、対象年齢をゼロ歳から5歳までとしておりましたが、この事業の内容は、保育中に体調不良となった乳児、幼児、または保護者の就労等により、家庭において保育を受けることが困難となった小学校に就学している児童に対し、一時的に保育する事業であること、また、ニーズ調査からも就学時の一定の利用が見込まれるなど、保護者の多様化する就労形態を鑑みまして、具体的な実施に至った際の要件等で整理をすることとし、第2期計画においては、対象年齢の設定は行わないということにしております。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

対象年齢の設定行わないということで、今までゼロ歳から5歳までだったんですけれども、小学生も入るということもあるんですけれども、対象年齢を設定しないということは、どういふのかな、その中学生でも、障害のある子供たち、自分の家に置いておくと心配だというようなとき、病気で心配だというようなときには、そういう人たちもいつも条例とかにあります、ただし書きっていうことの中で、拡大して利用できるようになるのかどうかということについてお聞きします。

○福祉部長（今野健一君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 福祉部長。

○福祉部長（今野健一君） 障がいのお持ちの方とかもですね、人員がそろえば可能だとは思いますが、まだ具体的なことにつきましては、これから詳細を詰めていくという形になりますので御理解いただきたいと思います。

年齢の制限は設定してないということですが、具体的に実施になった際には、年齢を制限しなきゃならない場合も出てくるかもしれませんので、その辺御了承いただきたいと思います。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

ぜひ、就労しているひとり親たちが安心して就労できるような方策をとっていただきたいと思います。

そして、また、この子供の病児・病後児保育なんですけれども、せっかく開設しても、私立の所なんかでしたら、要望たくさんあるのに閉めなくてはならないというような現状もあるというのを聞いています。ですので、平成4年までにしっかりと検討協議された後は、それが継続して行われるようお願いしたいと思います。

次の質問に移ります。

院内感染防止対策の準備は、2月10日、厚生労働省から新型コロナウイルス感染症患者の入院患者の受け入れについて、都道府県に感染症指定医療機関以外の医療機関に入院させることが可能であると通達が出されました。

感染症指定医療機関は、一般病院で対応するには危険性の高い感染症の患者を収容し、治療する特別な医療施設を指します。根室管内では、市立根室病院が感染症指定医療機関となっており、ベッド数は4床で、釧路管内合わせても8病床あるのみです。

感染が拡大することなく終息を迎えることが望まれますが、町立別海病院が新型コロナウイルス感染症患者を受け入れなくてはならない状況が出る可能性も否定できません。

このことから、次の2点について質問いたします。

1点目として、患者受け入れを想定し、院内感染防止対策の準備が行われているかについてお聞きします。

○病院事務長（大槻祐二君） 議長。

○議長（西原 浩君） 病院事務長。

○病院事務長（大槻祐二君） はい。

当院におきましては、院内感染防止対策委員会を中心として、新型コロナウイルス院内感染防止対策を状況に応じて講じることとしております。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

今、状況に応じてということをお聞きしました。

別海病院の院内感染対策協議会ですか、対策協議会の内容を見たんですけれども、全く何も、私の調べ方が悪かったんでしょうか、写真しか見受けることができませんでした。ですので、こういう緊急の状況になっているときですので、病院の院内感染の防止対策がどんなふうになっているか、町民が見ることができるような方策をとっていただきたいと

考えますが、いかがですか。

○病院事務長（大槻祐二君） 議長。

○議長（西原 浩君） 病院事務長。

○病院事務長（大槻祐二君） 今御質問ありましたとおり、現時点におきましては御存じだと思いますけども、通達では医師が感染を疑った場合には保健所などに連絡して、発熱外来のある指定病院への受け入れを要請するというところに今の現時点ではなっております。

議員おっしゃるとおり、当院は感染症指定病院にもなっておりませんので、当院において、今のところ受け入れを行うことになっておりません。

したがって、どのような、うちの院内での入院対策を講じるかとかを広くホームページ等で公開するのはいかがなものかというふうに考えております。ただし、当院としては、疑い患者様をもし入院しなければならなくなったとかっていった場合の病室の設定だとか、その場合の医療従事者の対応等については、随時協議検討し、院内職員の情報共有に努めているところでございます。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

院内感染防止ということでは、新型コロナウイルスってということだけではないと思います。様々な感染症ウイルス、最近様々なものが病院の中にはいると思います。

ですので、常に感染防止のための委員会っていうのは定期的にかけて、どんなふうにしていくかっていうようなことは、要綱のようなものが多分、病院にはあると思うんですね。ですので、そういうものがあるかないかだけでも、わかるような方策をとる必要があると思うんですけども、いかがでしょうか。

○病院事務長（大槻祐二君） はい。

○議長（西原 浩君） 病院事務長。

○病院事務長（大槻祐二君） 先ほども申し上げましたとおり、当病院におきましては院内感染の対策防止委員会を設けておまして、その要領やマニュアル等については、規定をしているところでございます。それを議員がおっしゃるとおり、広く町民にもという御指摘でございますので、その辺につきましては、ちょっと院内の中でも協議しながら、どのようなことを開示すべきか、情報提供すべきかということも考えていきたい、こういうふうに思っております。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

他の自治体病院でも、そういう委員会があるところは情報公開しているっていう状況でありますので、よろしくお願ひします。

2つ目の質問に移ります。

感染症患者に対して対応した医療職に対するいじめなどが報道されています。医療職に限らず治療対象となった患者に対しても、いじめがあってはならないことです。

受け入れる側として、皆が持つておきたい共通認識はあるかどうかお聞きします。

○病院事務長（大槻祐二君） はい。

○議長（西原 浩君） 病院事務長。

○病院事務長（大槻祐二君） いかなるときにおきましても、いじめはあってはならないという、まず強い意識を各人が持つことが大切だというふうに思っております。

コロナウイルス感染症に感染された疑いがある方は不安に思われていて、電話での問い合わせや来院されるということだと思います。特に罹患された方は病人ですので、その立場や心境に立った対応をすることが重要だというふうに考えております。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） はい。ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

新型インフルエンザ等対策政府行動計画の概要というのを見つけました。平成27年に出されたものなんですけれども、その中には対策実施上の留意点ということの中に、基本的人権の尊重というのが明記されています。本当に大事なことだと思います。

医療従事者も守らなくてはならないし、働いている人も地域の人も全ての人を守っていかなくてはならないということの中で、ぜひ共通認識を町民が広く持てるような方策を出していただければと思ひますが、町長、どのようにお考えですか。

○町長（曾根興三君） はい。

○議長（西原 浩君） 町長。

○町長（曾根興三君） 病気に対するいじめ等については、病院事務長がお答えしたとおり、あってはならないことだというふうに思っておりますし、それを住民にあってはならないですよというような啓蒙をどうしていくかという御質問かと思ひますけれども、これやっぱり町民の皆さん全体で、病気にかかった人、また、その患者を診察した人たちに対して、病気の蔓延を防ぐために努力してくれているんですよという意識を持ってもらえるような、そういう広報の仕方が必要かなと思っておりますし、議員の皆様方にも、ぜひ町民に対しまして、そういう形での理解をしてもらうことの促進を、一緒になって働きかけていただければと、そんなふうに思っております。

行政執行の担当だけではなくて、町民の代表である議員の皆さん方と一緒に、やはり病気をみんな見守っていこうという体制をとって行くことは大事だと思っておりますので、私たちもしっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、御理解よろしくお願ひを申し上げます。

具体的な策としては、今のところ特に考えておりませんが、やはり今回のコロナウイルスについても、もし患者さんがうちから出た場合にはどういう対応していくかというようなことも対策委員会の中で、対策本部の中で、しっかり話し合いをしておりますので、そういう体制で取り組んでいきたいと思っております。以上です。

○11番（瀧川榮子君） はい。

○議長（西原 浩君） 11番瀧川議員。

○11番（瀧川榮子君） これで私の質問を終わります。

○議長（西原 浩君） 以上で、11番瀧川榮子議員の一般質問を終わります。

ここで10分休憩いたします。

午前11時01分 休憩

午前11時09分 再開

○議長（西原 浩君） 休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

次に、8番松壽孝雄議員、質問者席にお着き願ひます。

- 8番（松壽孝雄君） はい。
- 議長（西原 浩君） なお、質問は一問一答方式であります。
- 8番（松壽孝雄君） 議長。
- 議長（西原 浩君） 8番松壽議員。
- 8番（松壽孝雄君） 通告に従いまして質問を行います。

高校生の通学バス助成制度の考え方などについてであります。

委員会調査を経て、委員の総意をもとに、私から一般質問をいたします。

平成30年11月の議会報告会において、別海高校の通学バス助成制度について、町民から意見があり、その声を基に、総務文教常任委員会では、高校生の通学バス助成制度の改善に向けて調査を進めてきました。

12月13日の委員会調査で現物給付制度への変更を求め、翌年1月15日の委員会調査で検討の考えを確認したところ回答は得られなかったため、2月1日には委員のみで会議を行いました。助成要綱、保護者の手続及び高校の受付対応について調査をし、現物給付化への制度改正は難しくないと判断をしたところであります。そこで、2月26日に再度調査をしたところ、1年をかけて検討したいとの回答がありました。

令和2年1月15日、新年度予算編成を前に委員会で検討結果が示されましたが、住民税非課税世帯及び同等の環境にある世帯に対して、概算払いの対象とする通学費助成要綱の改善であり、議会の求めている制度の改善とは大きくかけ離れておりました。

現時点で、町長と教育長の所信を5点にわたって質問をしたいと思います。

第1点であります。

町長は、この委員会調査の推移及び議会の求める改善内容を承知しておりましたか。

○副町長（佐藤次春君） 議長。

○議長（西原 浩君） 副町長

○副町長（佐藤次春君） 町長へのお尋ねですけれども、ただいまの件につきましては、私からお答えをいたしたいと思います。

町が執行をします事務事業については、各所管において完結するものであります。議会の常任委員会が行う所管事務調査において、所管で判断することができないものを除いて、常任委員会開催後、その都度詳細な報告を受けてはおりませんので、常任委員会調査の推移及び委員会の求めた詳細な内容等については、私も町長も承知をしていないという状況です。ただし、北海道別海高等学校に通学する生徒に対する通学助成事業の内容につきましては、要綱を整備して対応が行われておりますので、制度そのものについては、十分町長部局においても理解をしているところでございます。以上でございます。

○8番（松壽孝雄君） 議長。

○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。

○8番（松壽孝雄君） 先ほども報告をいたしましたが、議会報告会において、別海高校の通学バス助成制度について、町民からできれば現物支給があれば、高額な負担が大変であることがわかり、委員会として調査をし、町民の声を反映し、取り上げました。

この委員会の所管調査の内容は、逐次議会だよりに掲載をし、町民にお知らせをしているところでございます。

詳細な内容を把握しているか尋ねているのではありません。ひとり親家庭など子育て家庭への支援策として、概算払いを拡大すべきではないかというのが総務文教常任委員会での調査の結果であります。

そのことに対する町長の考え方を伺います。

○副町長（佐藤次春君） 議長。

○議長（西原 浩君） 副町長

○副町長（佐藤次春君） 現物支給の提案があったということ、それと概算払いについての対応ですね、教育委員会として検討していること、そのことについては、後に要綱の一部改正等に当たってですね、状況について理解をしているところでございますけれども、先ほども申し上げましたけれども、後のほうの質問にもあると思いますけれども、町長部局ですね、概算払いをどうすべきかというようなことについては検討していないということでございます。

○副町長（佐藤次春君） はい。

○議長（西原 浩君） 副町長

○副町長（佐藤次春君） 申しわけありません。

少し付け加えますと、概算払いを対応するということについては、教育委員会のほうでの考え方については理解をしておりますので、そのことについては、要綱を改正した中で対応するというので理解をしておりますけれども、現物支給のことについては、町長部局のほうでも、そのことについて検討しているということはありません。

○8番（松壽孝雄君） 議長。

○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。

○8番（松壽孝雄君） 町長部局では検討していないということですか。

検討しているということで理解してよろしいですね。

○副町長（佐藤次春君） はい。

○議長（西原 浩君） 副町長

○副町長（佐藤次春君） あとの質問にも出てくるんですけどね、町長部局においては、検討するものではないと、教育委員会の事務ですので。ですから、概算払いをするということについて、要綱を変更するということについては、そういう説明を受けて決裁も見ていますので、そのことについては私も町長も理解していますけれども、現物支給をするというようなことについて、町長部局で何か検討しているかということについては、それはしておりません。

○8番（松壽孝雄君） 議長。

○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。

○8番（松壽孝雄君） はい、わかりました。

次、2番の質問に行かせていただきます。

議会報告会で寄せられている地域の声からも、委員会として住民税非課税世帯などに対する支援の改善に向けて調査したわけではありません。

町長は、委員会調査の論点も含めて、教育委員会と情報共有の機会がありましたでしょうか。

○副町長（佐藤次春君） 議長。

○議長（西原 浩君） 副町長

○副町長（佐藤次春君） ただいまの件につきましても、私のほうからお答えいたします。

地方自治法第180条の2の規定では、普通地方公共団体の長は、その権限に属する事務の一部を委員会等と協議をして、教育委員会にも委任することができると規定されております。

本町でも、町長の権限に属する事務の一部を教育委員会に委任する規則を制定しております。その中で、別海高等学校に通学する生徒に対する助成の決定、また、教育委員会に配当された予算に関わる支出負担行為及び支出命令に関する事、これらにつきましては、事務を教育委員会に委任しております。

御質問にあります、議会報告会の中で、地域の皆さんからも御意見がどのような内容があったのかということについては詳しくは聞いておりませんが、少なくとも、これまでも要綱の目的に沿って通学費の助成を行い、また保護者の負担軽減に向けて見直しについても検討してきていると、そのように教育委員会では対応しているというふうに理解しております。

○8番（松壽孝雄君） 議長。

○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。

○8番（松壽孝雄君） 先ほども申し上げましたが、当委員会は、保護者負担軽減の拡充を求めて調査を続けてきたわけであり、調査の概要は、都度議会だよりなどで報告してきたわけであり、

町長が子育て支援として、別海高校通学助成の改善に向けて情報を共有ができています。を伺ったわけであり、議論が平行線になりますので、次の3番の質問に移りたいと思います。

3番であります。

町長は教育長と意思疎通を図り、通学バス助成制度の現物給付実現に向けて必要な措置を検討していく考えがあるのか、所信を伺いたいと思います。

○教育長（登藤和哉君） 議長。

○議長（西原 浩君） 教育長

○教育長（登藤和哉君） この質問については、私のほうから御答弁をさせていただきます。

通学バス助成制度については、制度の制定以降、令和元年7月には手続の簡素化による助成金の早期支給を目的として、助成金の決定に関して、乗車実績により助成金を決定する方法から、定期券等の購入実績により助成金を決定する方法に取扱いを改正しました。

今般の見直しでは、利用者の負担軽減を図ることを目的に、住民税非課税世帯に対する負担の軽減を図るため、助成金の概算払いを行うこととしました。

本制度については、助成金を支給する補助制度であり、扶助的な制度ではありませんが、今後も保護者の意向や実際に申請の窓口となっている別海高校の意見を聞きながら、事務負担の軽減と保護者負担の軽減につながる補助の仕組みについて、町長部局の財政当局とも協議しながら、継続して見直しを進めていく考えでございます。以上です。

○町長（曾根興三君） はい。

○議長（西原 浩君） 町長。

○町長（曾根興三君） 今、松壽議員の質問は、町長にということでしたので、今、一応委任事項、高校に関することは本来教育委員会の専権事項じゃなくて、町長部局で対応しなきゃならん事案でございますけれども、うちの町では、教育委員会に委任するという形になっておりますので、教育長のほうから答弁がありましたけれども、多分、松壽議員は教育委員会と町長との部局の連携がうまくいっているのかと、そこら辺の御質問だと思いますので、私は前の議会の中で、やはり一時的に高額な通学費を負担しなきゃならない、この現状を何とか改めてほしいという御意見があったことはしっかり受けとめておりました。

て、すぐ教育委員会並びに予算づけをする財政部局のほうに一時立替払いができないのかということで検討させまして、今回概算払いで支払いできるようにしようということで改正をしました。

それでも現物支給を欲しいということで、現物支給はできないのかというようなことも、教育委員会の担当部局または財政部局と話をしまして、いろいろ課題があるというような中で、やはり現金の概算払いのほうが財政的にもスムーズに行くというような、担当部局からの話がありまして、それでは概算払い方式を取ろうと、基本的には保護者の一時的な高額の負担を解消していこうという意味で、概算払い制度を今回取り入れるということにしたわけですが、どうしてもその現物支給でなければならないというのであれば、さらに議論しなきゃならん課題ではあると思います。望んでいる町民の方々と、そして執行する側での課題がどういふことがあるのかというようなことの話合いは、今後もしていかなきゃならないことだなというふうに思っております。勉強はしっかりやっておりますので、御理解よろしくお願い申し上げます。以上です。

○8番（松壽孝雄君） はい、議長。

○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。

○8番（松壽孝雄君） 町長、大変ありがとうございました。

今回の改正での概算払いの現物給付は、保護者負担の軽減になると思いますし、現在の予算で対応できる対策ですので、予算は変わりありません。委員会としても評価をしているところであります。

しかし、住民税非課税世帯は総世帯の5.9%で、別海高校通学バス助成者、150名中5.9%でいきますと、9名しか該当いたしません。5.9%では足りないと思います。

町民の中には、母子家庭や厳しい経済状況の中で、地域全体が疲弊しているのも事実であります。非課税世帯だけでは該当者が少ないのではないのでしょうか。事務作業は大変ですが、事務の簡素化をして利用の拡大を望みたいと思いますので、どうぞよろしく願いをいたしたいと思います。

では、次の質問に移りたいと思います。

当委員会では、昨年10月4日に職員の時間外勤務、休日勤務の状況について調査をしました。直近3年間を見ると、教育委員会学務課職員の時間外勤務は、全部署の平均の2倍を超えており、極めて多忙で対応ができなかったことが考えられます。

この制度の拡充について、高校の間口問題の観点からも早急に対応すべきと考えますが、町長はどう思いますでしょうか。

○教育長（登藤和哉君） 議長。

○議長（西原 浩君） 教育長

○教育長（登藤和哉君） この質問も、私のほうからお答えをさせていただきます。

現在実施している別海高校への各種支援策については、先ほど宮越議員の一般質問でも、その成果についてお答えをしたとおりであり、どの施策も必要なものであるというふうに考えております。

今回の通学バス助成制度の改正についても、教育委員会職員は多忙な状況にあるものの、取り組むべき事務事業として、計画的に事務を遂行しているものと考えております。常任委員会でも御説明しているとおり、今回の制度改正が最終的なものではありません。引き続き、保護者負担の軽減につながる補助の仕組みについて検討を進めることとしています。

ただし、各種施策の拡充や見直しについては、別海高校側の負担も考慮する必要があります。

条件整備に時間が必要となる場合もありますので、御理解をお願いしたいと思います。以上でございます。

○8番（松壽孝雄君） 議長。

○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。

○8番（松壽孝雄君） 今回の制度改正には、委員会としても前進したことに対しては評価をしております。また、これが最終的なものでないということも所管事務調査で確認をしているところであります。また、別海高校の事務負担及び手間のかかることも委員会としては把握をしております。

今後も教育委員会とともに、これはよい政策なので、委員会として検討していきたいと思っております。

条件整備に時間が必要という答弁でありましたが、どのくらいの時期を考えているのか、お伺いをいたします。

○教育長（登藤和哉君） 議長。

○議長（西原 浩君） 教育長

○教育長（登藤和哉君） お答えをさせていただきます。

高校と調査研究も必要であるということで、具体的な時間については、現在のところお約束できるものは何一つございません。以上でございます。

○8番（松壽孝雄君） 議長。

○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。

○8番（松壽孝雄君） はい、今のところはわかりました。

それでは、5番に行きたいと思っております。

所管の勤務実態を心配しつつも、我々町民の付託を受ける議会人としては、このような制度の改善に対して何年も待つことはできません。職員が気持ちに余裕を持って仕事に取り組めるよう、議会対応にかかる時間を十分確保できるよう、そして、議会と論議しながら、より町民に喜ばれる住民サービスが立案され、それが職員としてのやりがいにつながるよう、教員だけでなく教育委員会職員の働き方改革や機構の見直しを早急に行うべきと考えますが、教育長の所見をお伺いいたします。

○教育長（登藤和哉君） 議長。

○議長（西原 浩君） 教育長

○教育長（登藤和哉君） お答えをいたします。

職員の多忙感については、決して教育委員会だけではなく、全庁的な課題であるというふう認識しております。

確かに教育委員会では、ここ数年、教員の働き方改革をはじめとする国、道の取り組みの増加や新学習指導要領の実施、コミュニティ・スクールの本格導入など、特に学務課の事務量が増加していると認識しています。

これらのことから、次年度の体制については、今後も本町の教育行政を安定的に推進し、より能率的に業務を遂行できる組織とするため、機構改革について、現在検討をしているところでございます。以上です。

○8番（松壽孝雄君） 議長。

○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。

○8番（松壽孝雄君） ただいま教育長からの回答のとおり、教育委員会だけでなく、全庁的に職員の多忙の感じがあり課題であります。職員増には予算面もあり、現時点では難

しいと思います。

学務課では、別海高校の支援だけではなく、幼保小中、別海町教育の向上に取り組んでおり、またコミュニティ・スクール等にも様々な改革に取り組んでいるのは十分承知をしているところであります。

職員の働き方改革と機構を見直して、職員のやりがいがある教育委員会にしていくと、今教育長からの回答がありましたので、期待をしておるところであります。委員会としても、一緒に協力していきたいと思います。

最後になりますけれども、本年度、別海高校通学バス助成をはじめ、その他6つの助成計4,102万6,000円を計上しています。

今後も町内、町外からの別海高校生を入学させるために、さらに支援の充実をし、別海高校に入学してよかったな、そういう思いになるように、議会と町が一つになって取り組んでいかなきゃならないと思います。

そこで、先ほども町長からお話ありましたけれども、町長も今期は改選期を迎えております。町長の公約である、子育て支援も高校支援の関係でありますので、最後に町長から一言お願いを申し上げたいと思います。

○町長（曾根興三君） はい。

○議長（西原 浩君） 町長。

○町長（曾根興三君） 松壽議員おっしゃられたように、私の任期は6月18日までですので、長い今後の計画について、今この場で述べることはできませんけれども、令和2年度の当初予算作成に当たりましては、やはり議員のおっしゃったとおり、子育て支援、高校存続のための施策、これは続けていかなければならないということで予算づけをしっかりとしております。

高校が3間口、ここで守っていくということは大事なことですし、まちづくりのために必要なことだと思っておりますので、今年度、私の任期が終わった後についてもしっかりとそのことには取り組んでいくように、もし、町長が変わりましたら、引き継いでいきたいと思っておりますし、私がもう1期任されましたら、お約束してしっかりと取り組んでいかなきゃならんと思っておりますので、御安心をお願いします。以上でございます。

○8番（松壽孝雄君） 議長。

○議長（西原 浩君） 8番松壽議員。

○8番（松壽孝雄君） 最後の答弁、町長大変どうもありがとうございました。

以上をもちまして、本日の質問を終わらせていただきます。

○議長（西原 浩君） 以上で、8番松壽孝雄議員の一般質問を終わります。

◎休会の議決

○議長（西原 浩君） ここでお諮りします。

議案審査及び所管事務調査並びに予算審査のため、本日午後からと3月11日から12日までの2日間を休会としたいと思います。

これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（西原 浩君） 異議なしと認めます。

したがって、本日午後からと3月11日から12日までの2日間を休会とすることに決定しました。

◎散会宣言

○議長（西原 浩君） 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれで散会します。

なお、午後からは各常任委員会が、11日、12日は予算審査特別委員会が午前10時から開催されますので、よろしくお願いいたします。

皆様、大変御苦勞様でした。

散会 午前11時37分

上記は、地方自治法第123条の規定により会議の次第を記載したものである。

令和 年 月 日

署名者

別海町議会議長

議 員

議 員

議 員